へ5
6513

へ5
6573

七月

東京天ノ倉
大坂天王寺

西京双林寺つゝ前　茗荷屋
大坂今橋二丁目　五木菴
東京深川佐賀町　小筑菴
口横山二丁目　板取道　藤魚菴

0101860220 47

慶應義塾図書館

梅田抄和歌の事を[illegible]
抄[illegible]同[illegible]
[illegible]
一条[illegible]
の風[illegible]
[illegible]
を[illegible]
[illegible]

0101860220 47

又梅ごしを待せしあかつきの笑がほの
事を求むるにやいづれも寛永の梅
日の香を賞し翫ぶ者の名を
うしるを閑にさせしをまとめ人
よ〔illegible〕見せしむるとて当年の春
〔illegible〕

明治三年八月　〔illegible〕識

こゝろなきものにもあふ柳かな　等栽
浮つゝきて浮る真乃氷月　美喜
蝋燭会ほとりて灯かけて　栽
延房のほとりの〔illegible〕　春
川音の明るみにそのちらくと　栽
咲て明るし菜の花　春

二人口ゝ[illegible]庵の株　栽

酒乳ゝ[illegible]眠ゝ[illegible]　嶺

あちゝ[illegible]透ゝ[illegible]　栽

ゝ[illegible]　蕨ゝ[illegible]入ゝ　春

行ゝ[illegible]烏頭の[illegible]夏ゝ　栽

ゝ[illegible]ゝ[illegible]　春

鮒　梵ゝ[illegible]の白在ゝ[illegible]月　栽

雪ゝ[illegible]ゝ[illegible]の新生ゝ　春

雪ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　栽

ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　喜

花ゝ[illegible]ゝ[illegible]日ゝ[illegible]　栽

不ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　春

出代ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃

棉入ゝ[illegible]牛ゝ温陽　栽

廣ゝ[illegible]の四ゝ[illegible]　春

足駄帰ゝ[illegible]ゝ[illegible]の面目　栽

涼しかりおのつゝ色ふかあらぬ　秀

花柚のうつるも哉を半分　栽

出先うゝ拾ひのうれて嵯峨祭　秀

降ゝ付とうゝきうらうらし　栽

寒さまさは鶏の声れて都さに　秀

記念たゝうのうゝ月の千　栽

ぬゝくゝと歩りてうゝ月の秋　秀

畢下ゝてうゝ稲刈の辞宜　栽

あちらこちら殊更秋の淋さの形　秀

分のあゝうさ信居ゝやむ　栽

尺八のうゝうゝ鳴るあの寺　秀

ゝゝ御懸のうゝもぬゝて　栽

時ゝゝぬ宵の模様も花盛　秀

貧捌多軒ゝうゝ蝶　栽

まこと花のくらに客ハ起ぬる　大蟲

畳さらさら　赤ちゃけこの　美喜

さつま鳥達出の馬乃鞍を　〃

奉公ぬまつけふけ也　〃

畑物の中ふも月の秋茄子　〃

小笹はまの垣乃ゑのくち　〃

隣くら祐もらく借る来る　〃

飴引うけてたまれもきぬ　〃

見さらしに景ちつとけを堀の内　〃

脱もてもをさけるを裏足袋　〃

嫌ゑもはつもとを忘れて小乃をし　〃

雨戸も軽くらは蛙さ　〃

吹風もたつちやんて月の宮　〃

栗のうちとよ入を合す秋　〃

ゐるをとてをけハおらん串の鮎　春
ほそ〳〵れ腕と袴着の新　貴
今朝あるこゝろ冬牡丹　春
雀の新米けるもあし　春
神酒をもちて笠の緒とゝ
らく仏と風俗もあれハ冬
雑巾の費ハいとゝ高嘉好　春
ゐるをこゝろ行燈の世話　春

骨組ハ出来て空扇を陽ゐる　春
人あり多ゐ年柿のうけ　春
世ちらをとうハつゝ香煎湯　春
ちらと引てゐとけさゝ形帯　春
十足ゐたるもに暗ゐる　春
家のちゝをとなゝ貸蔵　春
犬のゝ乳ゐ形れ月影　春
ゐ色ゐ涼し夏草の伸　春

遠くまでもうつる鉦
鍬をうつけとは詞義まる　素
妙筋ハ投うけ拾ふる足りて
戸ものとうあわとも九石　春
拾ちくと吹れんれ花のうけ
蓋ゆ酔吹ふ妻のあきれ　素

美喜
奇泉

美喜に水と遠し初日の出
きりぎりす鶏のうしろ影
猷之の海苔を自分に扱ひて　春
色とも男ハとくに果て居ハ　泉
雪月の沢ハ咲もゆるに　春
鶯異うきて松の下風　泉

盂蘭盆のまあハ行ありて
狩りてみると苗麦を出す　泉
深山を持ての鍵の守る合ひ　春
昼通り行む人のとらく　泉
出ところを付やまこそあ新　春
表むきてきまあ酌取　泉
風入のすんを得たの夏雪香　春
菓をやる蜻の時の月　泉

一日よりぬ峠は登り下り　春
落書の画ふうこそ深春　泉
咲てある簾に花の用を色　春
池を春ふうきつ咲　泉
供ハ形陸の時もまるけ　〃
鎖まうも手腰提　春
御まて悪昼夏の茶屋　泉
陸まを人まあまを　春

小一月こうれと芝は刈果は　泉
申刻ゝ鳴れハ夫ハ色　春
雲はゝ嶺ゝ高き文ゝ　泉
佛火禁　祝ふ外のみさゝい　春
あゝあけゝ毛男のゝ鈴を履歩ゝ　泉
鶏ゝ高麗ゝ似合ふ肩入　春
月の秋ゝゝゝ出来のゝく　泉
庵のゝゝゝおきあはは　春

鮫のゝゝゝ撲の少尾ゝ縄のみ　泉
研ぎ手ゝゝ　庖丁のゝれ　春
町筋ゝ鮭さのゝゝたまゝれ　泉
ゝゝ時ゝ八月ゝゝゝく　春
咲ゝゝ花ゝ山ゝ蔵懐　泉
ゝゝ美ゝゝあゝゝみの伸　春

水草やあるさめぬるゝの色　美喜
このもとるさゝゝと云のひとゝ風　春湖
除るゝと夫食は懐積重て　春
ゝゝもの紐を結ふるゝは　湖
ゝゝゝゝ泊りくゝ御ゝ用　春
ゝゝゝ来ゝゝ客ゝゝる屋　湖

芍薬ゝ牡丹ゝ偶ゝ根ゝ分て　春
ちゝさゝゝ家ゝ中て熙堂　湖
貪着をゝゝゝゝの取得色　春
ゝゝゝ彩ゝ様蝶ゝゝゝて　湖
定紋をゝゝ衣裳の嶽勇　春
屋ゝゝゝゝ大根引ゝゝ　湖
さゝのゝる用ゝゝゝ糸束の　春
ゝゝゝゝ人下る堂を掃ゝ　湖

世代の水よりあを川長し　春湖

長舟の村

須床のまよ　春湖

花をとるひも一日のけさ哉　春湖

もとの長屋さくらの出代　湖

ものの山むらは干葉の臭よ夕べ　〃

ゆくて簾もうけめこ背家　春湖

講主より集る部の陪こハ　湖

天氣よもれハ五勢の賑ひ　光

眼よあきの田とやゆくと松生　湖

まゝ山椒を又ゝ花ゝ　春湖

嫁の来て男ゝ乃嚴ゝ　湖

暖簾ゝ朝風　春湖

ゝ傘のうゝけハ鰻の跡　湖

酔ゝ遠ハゝ腹乃酒　春湖

ゝ月のゝ時分　湖

ゝ菜　春湖

[illegible]　沈

[illegible]の日の脚　春

山中の宮木もとりつけて　沈

[illegible]切る嶮[illegible]　春

あらぬ[illegible]ちは禁め給　沈

自由な水[illegible]も苗代　春

[illegible]の水おもふ所[illegible]　美喜

日[illegible]雲岩[illegible]　春湖

里[illegible]振荷の雛を皆みて　大蟲

[illegible]の漁[illegible]機[illegible]　喜

黄昏の姿[illegible]月乃[illegible]　湖

簾[illegible]　春

柳陰をまんとうに成合ふ　吉
ちれかはるとうの行衛　湖
石間の出と妻の方へ参りけり　吉
のれんにうたは筆の書初　春
荷を売の来て西ひをあふぎ　湖
崩を橋と名付給也　吉
月もなく氷るうの書の家　春
藏て百日たつ　燈心　湖

大勢を叱り足なみ　吉
用水をもらふ山をうぬく　春
うなくてもうれあ花ひこうと　湖
とうとうてうと紙汁のまうと　吉
妻をを墓ひろうまを砂の上　春
社務の中ても門の出迎入　吉
衣襲櫃押して墨のあるを　湖
除計に解ておけば白粉　春

つまとなさと言葉使の話まで　芭蕉

手紙の後も紫陽花の庭　湖水

ふるさとのまゝあの雪の西　芭蕉

市のもつをかうやくを湯も　芭蕉

ゐるを戻る遠き二里の道　湖水

俵をつんでせん軒下　芭蕉

日向ぶくぬるおその秋の月　芭蕉

まつまつとして稷の実ちるなり　湖水

山駕をあるふは後のうぶ雀　芭蕉

袴ぶりかりて借てちる家　芭蕉

削てもゆ例の紙をはく柱　湖水

ゑ塗を語り折のあまくら　芭蕉

芒未塚のうれとうもゑ花　芭蕉

夢の網をあける晩鐘　湖水

ゆくとしの時や野ごとに　芹舍
見おくれハ祇園へ入ぬる禅者　有節
初鰹の波乃ゆつ也気比の海　渓節
七福のおしうけ宮ヒ夷構　頑水
花ゆゑ乃隙乃やけ法華寺　拾山
木槲の古さ屋ち梅花　赤甫
破さしハてハ日ちゑる芭蕉　卓志

外の花を打ちきしゆ傘の源　祭魚
内の修を金ゆゑ乃出ゆ　海藻
花ちしけハ枝ら乃葉ゆ　得也
ち柳ちけよ乃ち腰乃　雪歌
乃ら乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ　良大
宵ちゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ　文海
ちつ秋のちしゆ乃ゆ乃ゆ　黙池
今乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ　九起

再とし隔たれの橋の音　潮水

炭竈や條打ちて入る道　宇尺

旭の昇る方へのひろう春の香　南齢

うつ梅るや庭の小笹に柾にしみ　似蝶

名をとりし団扇さしぬ角力取　松壕

菜焚し煙ハまとふて梅のそひ　菊也

友の手をおし伸しぬ淡雪かな　朝逸

是よりて酒うる家乃柳かな　鳴篤

小春日や越行先も蜜柑山　素庭

卯の花や咲入れて見やとう　乙也

若水や薮の透間か山まつり　呂嶽

のし餅よれと昔文にある西瓜かな　培芽

黄ゑるも茶の木まて取らぬ除夜かな　蟻涸

修築のけふ似合しき手事かな　山士

吹撓むる柴の下は小家かな　竹茗

秋てそりうつあめ蛙うみ　柳狂

高砂の浦の海月も鳴て絶月　羽陽

夏の夜や星こそしらぬ稲の穀　素溪

寄る迷ふ磯の芦の葉の上　静夏

街道や蝋ろと生る夏月る　士芳

人影のうつるとうつる夏の雲　流翠

花の香の雲の扉の料理　酔雨

汐のそる街道苔て雲の峰　三楓

二日酔さめぬる柳の影　華岳

魚洞のとゝ彼岸と鳴ぬ　素陽

きつゝ人のゝ振てハ鳴ゆ　柳谷

あゝ鳴て眼ハさめぬ梅花　芝椿

遠山やあゝあらちは鳴ぬ　士前

咲くもの赤しと時るの梅蘇　蓬宇
鶯宿や川の時て荷ちらし　雁峰
灯新しき家ハあて少あ砧　半仙
八月や雲ちんけつくはて　言之
流し眠ちもわて雲し芙蓉　秋夢
夏の月千ちの九ハ寿ちう　一夢更　半桂
年逝の雲ちて川時るれ　杜堂

京の時ちの紅ちく吹て其の雲　嵐牛
灯新しき葉の月や初蛙　杜水
ちく魚や箸ち始んと思ハ　園知
る士ハ夕時て時るの大井河　十湖
ちく特称ちく山ちう　舒堂
何ちも蓮ちく　水潤
咲ちく湖や鹿のちく　清節
出切あちの水東の蓮ち　九成

秋里も出るやうの時や霧隠れ　尋香

さつをるをおくれハとる浦の松　太年

隠出すや舟をるく秋の月　青渓

枯蓮中人ハさかるもいとハ　香芝

咲ちらふ日ハ咲てもたて行寿ち　竹良

隠れ又ふるいふ蓮の葉　草園

月うけをうてすうる移　一陽

行ふらの紀やうの物カをそうつる

吟て居る涼あれハうるまちる　通志

行るるう海をてハかあれ　子紹

乃ふの中打寄海乃ハ吹ふを　由改旌

四五日の新やくふのうち松魚　閑茶

うつ乗やうをてをめてをる苦良の火　草巴

海苔の香やあるの俳ちる猿丈変　連水

やまき分けそめやはなは小春人　完鵬

みそのゆふ新酒とゝのふて更衣　此木（此糠及）

梅こゝまさるの照りや初あめ　篤之

そつめくゝ星くゝ冷て夜半の秋　泰眠

山ハ只まくさくうゝやをの時　知泰

蕨くさくるものて焚き敷をゝ　梅年

途中くゝ張る蚊の暑さゝ　友昇

米とくゝの栄粥めくゝ春はゝ水ゝ　嵐松

東風ふくゝや物ものうき世数の家　桂夫人

何ものゝ乞ゝもゝ発ゝ時ゝる　一理去

乞ゝる今年くゝもゝ如墓ハ　涼花

一里のいゝ合せてや大根引　野井

蓬菜やまくゝ人ゝ生ゝ歩ゝ見　五渡

い行つゝくゝ問ゝるゝもあゝるゝゝ　菁我

ゝつ鯉買てゝゝの猪作ゝ北　松古

鶯くらきに来てあかる福寿草　他山
すかたによるやさくらの花に雪　亜村
足あと絶ゆるかさは千鳥なり　月杵
松か根のまた繋馬や初日の出　釣月
杖ふるも朔日ふりや筆始　李山
若菜につみて孫達につまれるの蝶　摘翁
暑さなみや扇きし候につかるる　鶴歩
人妻よそふしなれる子菊かな　旭翁

ふり分て鬼と見るな小松かな　鶴巣
咲きそめし風のぬるさや桃の花　静我
晴かけて雨もちらくや竹のはる　琴堂
月をとへるくるかや夜さくのひて来る　乙駒
まとひの山路を鳥に鈴かれ　一朗
白梅や夜まてありきてさんまほ　茂精
畑打ちらん遠くなりや岨の人　蘂卯

ふるつしよりの後ろすがたかな　巣欣

さくら口の麦や　小麦の一さかり　又邨

八彩や　鮫ゆ　鮫ゆ　ちらちら　扇　風葉

雲ちるや　ゆくて　行ふる　雲の外　尼　採花

ゆくあるとを　篠　おそ　篠　月　龍湖

蓮　蓮　鮫　まこの　花菖蒲　宣扉

雲仕　ゆゆ　追ふ　里や　麦ふる　省我

葉山ゆう　林　せきふる人　梅休

疲ふる　叶　れ　時　やきそ　稿　其残

秋の蝉　手の　手の　梅　戻ふ　精知

時ふる　つけ　ふ　ふ　ふ　ふ　蒲池

あふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　分居

ふ　流　野　家　毎乃　坂　三外

客　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　逸外

禅寺の掃除しまいて寺のる　竹窓

三月や足の音にあるり　羅村

絵に見やれば一梅もの花　一光

六月と思ふるのやうに　左琴

稲妻や森閑もる後か蛙　左一

連歌やうに足は迷入口　曲川

葉の色もうてる事に　我川

傘をとりて取るは唐の頭巾や　静子

横塵や雲の先に一時る　鹿波

をもうて見れば野梅に　巴大

風さやしに身を横ふてうる　樹

ちやや一羽ふくとは思ふ　嘉兄

方角の指ふまるる士　雅年

見えて出て来る水や春のよ　牡山
尼寺や尾花ふけゆく風　漸風
人の来て牛物をつる牡丹哉　西美
豆腐や柿こてかある垣の内　袋蜘
隣より跑く教柿くれる　柳五
借てゐる傘よりこぼる亀哉　桑五
息災を身に養て柳哉　兒川
寺こそ仏野山よりあがりそめ　金城
　　芳塢

柳方や寺の構乃繰相　兆龙
そまく解よりあるて表所　此一
端太の清よりさはやあるん　淇山
咲れハ浦山よりあり之路の花　続石
釜つゝや幼ちゝ乃尽こそ　可笑
窟下りの花ちるよりもも砧　一鳥
貸家よハ乃こ建具や杜美　素山

学や古き命は今の春　江妻
粥杖や遅つゝれてよくも新　藻鏡
ちる桜寄て宿とる時雨　雪貫
出ねハ気の濁ぬ日和やそう袷　紫山
うち水の打ぬ田まつや待うけ　一栽
ちる梅を惜ぬ人もなし　有月
葉山や新年をまつれ　二葉
布干とけうり陸や桃の花　寒香

はけうとと梅ハ世蓋の山家哉　小雲

傘よつゝて城りうこれ薄　柳意
よき庭や流ふりて葉の色　雪袋
時雨ふるやたゝハ水の不定ゆ　大夢
冬構拂ふ庭や月と梅　柏葉
接子にうゝ深夜の盛の臭　眠鷺
咲ぬ日は秋の日数や花木槿　帯月

[illegible]の[illegible]は[illegible]を[illegible]
[illegible]ふ[illegible]つ[illegible]は垣根に　野鶴
菊堂

一筋の大河はるき紅葉に　契史
[illegible]れて風[illegible][illegible]の色　禾旌
[illegible]の[illegible][illegible]より[illegible]日和に　[illegible]
[illegible]風の日[illegible]くもりもなく　[illegible]
是[illegible]の雲や木[illegible]の初月夜　雲濤

一[illegible]日さ[illegible]おさ[illegible]の秋　嗇墨
四[illegible]おり[illegible]の[illegible]の月　松涛
[illegible]を拾て行初九に　霞堂
[illegible]五尺つ[illegible]　市猿

因附

明治己巳歳十一月九日卒　越後千手
辞世　克明

[illegible]の末[illegible]

追悼

時ありの春や枯野をあく彩　雲山

詩をもて消ゆる分ちの仏　龍昇

雪つふるに袂をかきさぐる

二十余年毎年ちるとつる

むかしく消ゆるもの

ちるおもをくるも寒しる　吳竹

拾ふと垣ちかの一本ゆ　木甫

ちつも又花よりもうる紅ゆ　梅歌

ゆるとをかよ木の弓ゆ第ゆ　梨麦

ちるはをのたにうる蕨の掃ゆ　朴亟

日暮中ゆ春ゆ暖ちる夏冰　茶魁

野の宮ゆ起て紅の影　宗曉

うゆ夜のうゆあいうゆの雫　茶如

まつ山袖春ゆとの影ゆ　亞物

[illegible]　　吟琴
月のあるを[illegible]の秋　　湖堂
夏の夜は一隅[illegible]柳　　峯山

庵の戸も一日[illegible]冬ゆふ田[illegible]　　為山
相の[illegible]やへ[illegible]　　春湖
雨ふる[illegible]　　華兄
此恵や客[illegible]　　桃仙

[illegible]花や夜は虫[illegible]　　見外
[illegible]花は[illegible]山　　香城
路[illegible]　　蕉露
渥[illegible]　　[illegible]雄
[illegible]　　泰民
芝野の月や狸[illegible]腹つゝみ　　大無公
浮く親の[illegible]松の花　　[illegible]柯
[illegible]紙[illegible]　　[illegible]泉

見るもの聞く日々毎や秋の雲　西雄
子供等新しき新やうの月　甘海
埃ふる日ハあるうるさくなる　男楽
日の中ハ町まるくや蜂の巣　木和
先ほどまで一羽の雨古る　月彦
居ながら白き降るよ冬ごもり　東枝
曲屋のまく扱ひや雲のうつり　是三
芝ふる新しのそ夜のもとつや　仙月

木ゝ竹に夏の出来るさの秋　呂坡
七日ばかり小袖ゝまた花豆　亜蕉
一ばかる蘭ゝたやすめば　東霞
見る人ハもるくもも大根曳　芳草
ちられも伝ひ夜ゝまき棒ル　ちき雄
るの菜や人ハ口ゝたゝ日の　永機
あけはまに牛ハ引れて来の　乙表
るく人の見るまゝ蜂拂　多栽

春の秋乃後よりぬ蕣を　千畝

みさやかの所を禁かの山　昌可

庭ちるやうて秋の花の色　苣麿

青ちのやうに仏ちは蝶ひら　文昇

まちをくやさく秋さ森さん　在石港 青宜

秋起のうちも里の寒月い　月乗及 桑翁

花ちみれ秋汲彩て更衣　春峰

秋ちを鈴ち村て猴の秋　石叟

第四巻中立ハかなく新の敬　謝徳

千ちるさくうちち楯也二枝杉　弘美

風ちあと侍ちさやか帝を　宋芳

酒ちを秋ち袖よ秋ちかいを　祖風

鈴めちて蛙ま夏とれう　龍得

時を流の水ちと神の蕣　完車

ちまかの和の色の切通し　眠外

ちちて山情乃さを　乙竹

魂柳ちかうふる小土器　宇山
正月の日はさしもやはらかに　成伍
ちりちりとなる人ぞ和平なる　五休
鶯のこのうつくしき人ぞ荒の髪　黙平
ちりまきは遠やなる種の挿ふくき　鳳雛
松の日のとけハくれ時なるれ　うつる女
屋のうちおのつうつく紅の道　花野女
鶯の鳴や時なる　蓼と

夷樣　英金花さく夷ふるう　甘茶
ちつ野ちるちやくもちるんれ　如白
山ちけ花なのうちり氣ちし　護外
秋ちうき義ちうあり秋の冬　三水
筏士の脚あちしあるるれ　正价
戸口まで麦畑村冬ちるる　必貫
蓼ちや屋のうちもちるう　後素
ちちちくちれうちるれ　新声

秋一時雨や後の月のる　存長
押入の中桑の枝ぬれ　素水
川中の景色ひとし初月夜　菊麿
咲出て花よりも勝る　二柳
古寺の時雨の硯哉　研月
寺門や苔の秋寂し　樹る
夢さめてこゝの門方の菊先　梅雄
桔梗の蒼ゑ　禾旭

口さうな人さうな秋の気　雪松
此ほどを嫁の花帯　不求
乙さうな袖こぼれ　在吉殿 竹東
蕣の色つゝ形　林甫
吹ほども実の木葉ふり　芳泉
暑くても此通ひ稲の気　大嶽
稲の香小夜の明て有つゝ　美寿

明治庚午秋七月

良藥庵棒

宣内藏書